

# 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン2010 教員の手引き



## 世界100カ国以上の子どもたちといっしょに 教育について考える**授業**を実施してください！

今日世界では、7200万人の子どもたちが学校に通えず、190万人の教員が不足しています。世界中の子どもが教育を受けられることを願って、180ヶ国のNGO(民間の国際協力団体)や教職員組合が運営するネットワーク「教育のためのグローバル・キャンペーン」(Global Campaign for Education)では、2002年より毎年4月に教育のための世界キャンペーンを行っています。

今年は、アフリカで開催されるサッカーの世界カップ(6~7月)にあわせて、FIFA(国際サッカー連盟)と連携して、教育のための資金について考える「世界一大きな授業」を世界同日に行います。昨年は、日本の小中学校153校から約2万人の児童・生徒が、世界では1200万人以上がキャンペーンに参加しました。皆さんもぜひ、世界中の子どもたちの教育を願うキャンペーンにご参加ください。

### 世界一大きな授業

「ゴールはひとつ！世界中の子どもに教育を」

実施日： 2010年4月20日(火)

### 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン2010

- 主催：教育協力NGOネットワーク(JNNE) <途上国で教育協力を行うNGO 28団体のネットワーク>  
共催：立教大学ESD研究センター  
実施：「世界中の子どもに教育を」キャンペーン実行委員会  
(構成団体：ACE、オックスファム・ジャパン、シャンティ国際ボランティア会、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、  
プラン・ジャパン、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、ユネスコ・アジア文化センター、ラオスのこども)  
後援：文部科学省、外務省、国際協力機構(JICA)、開発教育協会(DEAR)、動く→動かす

# 1. 授業の参考例（45分間で、教材を使用する場合）

## 授業のねらい

世界の教育の現状を知り、学校に行くことができない原因と問題点について考える。また、すべての人々が教育を受けられるようになるためにはどうしたらよいか、意見を出し合う。

授業が始まる前に・・・		
・ポスター教材は、1枚目のみ授業日の前に掲示して、子どもに見せておく。当日は、①～⑧を切り取って使用する。		
教師	子ども	備考
「これから授業を始めます。」 授業のねらいを確認し、世界一大きな授業について説明する。		
<p><b>■テーマ1「教育を受けられないのは、なぜ？」</b></p> <p>・世界の教育の現状を知り、なぜ学校に行くことができないのか考える。また、学校に行くことができて教育の質に問題があることを知る。</p> <p>・導入としてワークシートをお使いいただけます。 (ワークシート1面)10分</p> <p><b>1. ワールドカップとアフリカについて知ろう！</b></p> <p>【Q1】今年ワールドカップが開催される南アフリカ共和国はどこでしょう？①～⑥の中から選び、国名を書きましょう。</p> <p>【Q2】チョコレートの原料、カカオを日本に輸出しているガーナ。小学校を終えて、中学校に通う生徒は・・・ あ)4人に1人 い)3人に1人 う)2人に1人</p> <p>【Q3】世界中の子どものうち、働いている子どもはどのくらいいるでしょう？ あ)7人に1人 い)70人に1人 う)700人に1人</p> <p>(ポスター教材①～⑤) 15分</p> <p>①この子はなぜ学校に通えないのだろうか？</p> <p>②どうして外で授業を受けているのだろうか？</p> <p>③日本の学校とどこが違う？</p> <p>④海外の子どもと先生の声を見てみよう。 (写真左上)サキナさん(ナイジェリア) (写真右上)エサド君(ボスニア・ヘルツェゴビナ) (写真右下)ハルン君(バングラデシュ) (写真左下)トビアス先生(ザンビア)</p>	<p>ワークシートの問題に答える。地図帳を使い、各国の場所を調べる。</p> <p>ポスター教材を見ながら考える。</p>	<p>【世界一大きな授業について】 補足説明 p.4. I.</p> <p>【Q1の答え】補足説明 p.4. II. ⑥(アフリカ大陸でワールドカップが開催されるのは今回が初めて。ほかの出場国は、①アルジェリア、②ナイジェリア、③コートジボアール、④ガーナ、⑤カメルーン)</p> <p>【Q2の答え】 う(ガーナの中等教育進学率は男子 47%、女子 43%)</p> <p>【Q3の答え】補足説明 p.4. III. あ(2009年11月現在、児童労働数は2億1800万人)</p> <p>【写真の説明①】 児童労働で、サッカーボールを作る男の子(インド)</p> <p>【写真の説明②】 内戦によって校舎が壊されたため、外で授業を行っている(アフガニスタン)</p> <p>【写真の説明③】 教室や先生の数が足りず、すし詰め状態で授業を受ける子どもたち(ブルキナファソ)</p> <p>【④子どもと先生の声】</p>
<p><b>テーマ1まとめ</b></p> <p>世界には児童労働や貧困などが原因で、学校に行けない子どもがたくさんいます。学校に通っても先生の数が足りず、たくさんの生徒が一つの教室で勉強しています。また、給料が少ない、もらえないなど教師に対する支援が足りません。</p>		

<p><b>■テーマ 2 「教育のための資金が増えると、どんなことができる？僕たち、私たちにできることは何だろう？」</b></p> <p>・教育の資金が増えるとどんなことが可能になるか？市民が中心となって活動するNGOの取り組みを通じて、私たちができることを考える。</p> <p><b>(ポスター教材⑤～⑧) 10分</b></p> <p>⑤世界の軍事費:146兆4000億円。 世界中の子どもが学校に通えるために必要な援助額:1兆6000億円。</p> <p>・教育のための資金が増えればできることの例</p> <p>⑥先生の教え方わかりやすい！</p> <p>⑦学校ができて、机もイスもあるの！</p> <p>・先進国だけでなく、途上国の子どもたちも行動しています。</p> <p>⑧みんなが動けば、世界が変わる！</p> <p>・まとめとしてワークシートをお使いいただけます。 <b>(ワークシート1面、2面)10分</b></p> <p><b>2. 世界中の子どもが学校に通えるようにするために、あなたができることを考え、上から順番に並べてみましょう。</b></p>	<p>世界中の子どもたちが学校に通えるにはどのくらいのお金が必要なのか知る。</p> <p>自分にできることを考え、順番に並べる。友だち同士で話し合う。最後に感想を書く。</p>	<p><b>【教育のための資金】</b>補足説明 p. 5. IV. 世界で使われている軍事費の約4日分で、世界中の子どもが1年間学校に通うことができます。</p> <p><b>【写真説明⑥】</b> 教員研修を受け、分かりやすく教えてくれる先生から学ぶ子ども(タンザニア)</p> <p><b>【写真説明⑦】</b> 新しい学校に机とイスが備えられ大喜びの子ども(アフガニスタン)</p> <p><b>【写真説明⑧】</b>補足説明 p. 5. V. 昨年のキャンペーンの様子 (日本、ニジェール)教育への支援を増やすように子どもの声を政治家に届けました</p>
<p><b>テーマ2 まとめ</b></p> <p>世界で使われている軍事費のたった4日分で、世界中の子どもが1年間学校に通うことができます。また、教育のための資金が増えると、教員の研修や、教育現場に必要なものが準備でき、より多くの生徒が、より良い環境で学ぶことができます。</p>		
<p><b>授業のまとめ</b></p> <p>これまで、教育のための資金は後回しにされがちでした。しかし、世界には教育のために使える十分な資金があります。教育を受けることができれば、一人ひとりの可能性を伸ばし、国全体や世界全体に大きな影響を及ぼす力にもなります。今日、私たちがこの授業で世界の教育の現状を知ったことは、学校に通っていない子どもたちの状況を変える大きな一歩となります。自分にできることからぜひ行動してみてください。これで授業を終わります。</p>		

※授業の流れはあくまでも参考例です。先生ご自身で組み立ててくださってももちろん結構です。お願いしたいのは、次の二つのテーマに触れることです。

テーマ1.「教育を受けられないのは、なぜ？」

テーマ2.「教育のための資金が増えると、どうなる？僕たち、私たちにできることは何だろう？」

※ワークシートを同封しましたので、ご自由にお使いください。また、授業後に、子どもの感想や先生のご意見をどうもお送りください。ホームページや報告書などご紹介させていただきます。

## 2. 補足説明

### I. 「世界一大きな授業」とは？

毎年4月には、世界100カ国以上で、NGO(民間の国際協力団体)や教職員組合が中心となり、「教育のためのグローバル・キャンペーン」を行っています。今年は「世界一大きな授業」として、世界一多くの人と同じ日に同じテーマの授業を受けるといふ世界記録を目指しています。今の世界記録は、2008年4月に行われた「世界一大きな授業」で、885万人が参加しました。今日の授業は、世界中でこの記録を超えるために、たくさんの方が参加して世界一を目指します！

### II. アフリカの国情報

国名	5歳未満児死亡率 (1000人中)	平均寿命	初等教育就学率	中等教育就学率 (男子、女子)	識字率
日本	4人	83歳	100%	99%、99%	—
① アルジェリア	41人	72歳	95%	65%、68%	75%
② ナイジェリア	184人	48歳	63%	—	72%
③ コートジボアール	114人	57歳	62%	25%、14%	49%
④ ガーナ	76人	57歳	72%	47%、43%	65%
⑤ カメルーン	131人	51歳	84%	—	68%
⑥ 南アフリカ共和国	67人	52歳	86%	70%、75%	88%

「ユニセフ 世界子供白書2009特別版」より

### III. 教育を受けられない原因は？

#### ◆児童労働：

途上国では教育のための予算が少なく、授業料が無料ではない国があります。貧困家庭の子どもたちや孤児は、学費を払えない、家計を助けるために働かなくてはならないなどの理由から、学校に通うことができません。また、学校の教育の質が低いために、「学校に通わせる意味がない」と親が考えている場合もあります。

#### ◆紛争の影響：

学校に通えない子どもの半数以上は、紛争地の子どもたちです。紛争地では学校が破壊されたり、子どもの健康や安全が脅かされるため、多くの子どもたちが学校に通うことができません。また、男女ともに、「子ども兵士」として、戦争に加担させられている場合もあります。

#### ◆教員不足：

多くの途上国では教師の数が足りず、一人の教師が大勢の生徒の面倒をみています。教員の多くは一般的な公務員より安い賃金で働き、病欠中の賃金や年金といった恩恵を受ける資格がないため、教員の無断欠勤や教員数の減少を引き起こしています。2006年にザンビアのNGOが試算したところ、一世帯あたりに必要な生活費が月約4万1000円であるのに対し、教員の平均給与は約1万9100円でした。

#### ◆女の子の教育：

途上国の貧困家庭の多くは、女の子より男の子の教育にお金を使います。また、学校内で性的嫌がらせを受けるなどの理由から学校へ行けないこともあります。早すぎる結婚、トイレが男女別に分かれていないこと、女性教員の少なさなどが、さらに女の子から学校を遠ざける要因となっています。

◆学校までの距離:

2000年以降に14カ国で小学校の授業料が廃止されたことにより、生徒数が急増しました。しかし、生徒数に対して、十分な数の学校がありません。一番近い学校が何十キロも離れた場所にあると、交通手段が発達していない限り通うことはできません。雨季に道路が冠水したり、通学途中に野生動物や性犯罪といった危険にあうこともあります。

◆少数民族:

途上国の中には、偏見のために少数民族が通える場所に学校を建てることを後回しにする国もあります。少数民族の言語で授業を行うことを認めなかったり、現地語を理解する教師が不足していることも多くあります。家で話す言葉と学校で教わる言葉が違うため、勉強についていけない生徒は自然と学校から足が遠のくことになります。

### IV. 教育のための資金、軍事費との比較

世界中の子どもが学校に通えるために必要な援助額は1兆6000億円、世界の軍事費の合計は146兆4000億円です。世界の軍事費4日分で、世界中の子どもが1年間学校に通うことができます。

◆軍事費の上位10カ国

1位 米国 (60兆7000億円)	2位 中国 (8兆4900億円)	3位 フランス (6兆5700億円)
4位 英国 (6兆5300億円)	5位 ロシア (5兆8600億円)	6位 ドイツ (4兆6800億円)
7位 日本 (4兆6300億円)	8位 イタリア (4兆600億円)	9位 サウジアラビア (3兆8200億円)
10位 インド (3兆円)		

「ストックホルム国際平和研究所(SIPRI) 2009年」より

### V. これまでの成果

「世界中の子どもに教育を」キャンペーンには、世界中から毎年数百万人もの人々が参加し、様々な成果をあげています。例えば、昨年度のキャンペーンには100カ国以上で1200万人以上が参加し、子どもや保護者、教師のほか、大臣や政治家も多数参加し、市民の力をあわせた行動が政府への働きかけとつながりました。

また、このキャンペーンは、各国政府の政策にも影響を及ぼしています。先進国では援助額の増加の動きがみられ、途上国では、14カ国における学費の無料化、女子教育の重視、中途退学した若者・成人向けの教育機会の提供などが政策に反映されています。その結果、1999年に比べて3300万人以上の子どもが学校に通えるようになりました。

◆日本から153校、約2万人が参加した昨年のキャンペーン



子どもたちから御法川外務政務官(当時)に日本からの教育支援拡大を訴え、感想文が麻生総理大臣(当時)に渡されました。

## VI. まだ残る課題 ～教育のための資金～

すべての子どもが学校に行き、すべての大人が読み書きができるようになるためには、年間3兆5000億円が必要です。このうち、1兆9000億円は途上国政府が教育予算を増して出すことができますが、残りの1兆6000億円は豊かな国が援助する必要があります。

必要な援助額(1兆6000億円)のうち、実際に援助されているのは、3分の1以下の4300億円です。援助額を国の豊かさに応じて分担したとすると、日本は2080億円を援助する必要があります。ところが、日本の基礎教育分野の援助額は、現在わずか300億円です。日本は、援助を7倍に増やす必要があります。

日本のODAのうち、基礎教育分野の援助額の割合は0.7%で、他の先進国の平均の2.1%と比べて3分の1です。一方、世論調査((財)国際協力推進協会、2009)によると、ODAの必要な分野として、39%の人々が教育を挙げています。国民は、貧困、保健、難民や被災者への支援、教育分野にODAは使われるべきと考えているのです。

2009 Report Card		Japan	
Country	Japan	Head of Government	Yukiyo Hatakeyama
Overall mark	32/100	Overall Grade	D
Position in class	12/24		
Meeting the internationally recognised aid target			F
Providing a fair share of the funding needed for Universal Basic Education			F
Committing to multi-lateral co-ordinated efforts			D
Focusing on poorest countries where girls most lack access to education			F
Providing high quality aid to education			B

**Teacher's Comments:**  
It looks like Yukiyo has a difficult job in front of him, trying to avoid the work of his foreman, Shunzo. Shunzo was clearly not paying attention in class particularly when it came to providing aid according to levels agreed with class mates. He also did not have an interest in subjects relating to primary education especially in the poorest countries. These are classes Yukiyo needs to do some extra revision for. He should try increasing focus on the PPI as well as maintaining the quality level of aid to education. A lot of pressure on Yukiyo this year, but we believe he could pull himself together and get stronger grades!

「教育のためのグローバル・キャンペーン」(Global Campaign for Education)は、各国の教育援助の評価を成績表の形で発表しています。2009年の日本の評価は100点中32点で、「D」評価でした。

これは、評価対象となった先進国22カ国中、18番目の成績です。一方で、新政権に対する期待も寄せられています。

## 3. アクティビティの参考例

ポスター教材⑤の軍事費と教育費の比較は、アクティビティを通して学んでいただくこともできます。  
(制作協力: (特活)開発教育協会)

### 【事前に準備するもの】

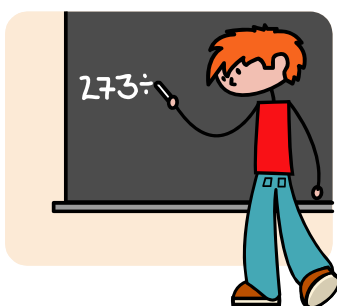
リボンをそれぞれの長さに切っておく。

### 【進め方】

生徒にリボンの先端を持ってもらい、①から順番に引っ張ってもらう。

- ①世界中の子どもが1年間学校に通えるために必要な援助額: 1兆6000億円 16cm
- ②世界のゲームソフト市場: 4兆円 40cm
- ③世界の軍事費: 146兆4000億円 14m 64cm

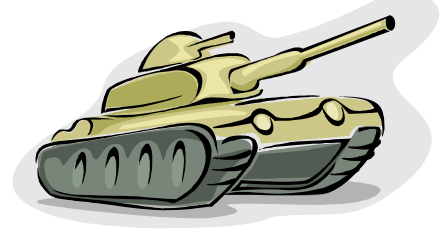
### ◆印刷用のラベル(コピーしてお使いください)



教育



ゲーム



軍事費

## 4. 終了後の手続き

- 実施報告書(ギネス登録用紙)をお送りください。【締切日: 4月30日(金)】  
※写真や感想文は、ホームページや報告書などでご紹介させていただきます。  
※ギネス登録のため、2人が証人となってください。
- ポスター教材や映像教材(PC用DVD)は返却不要です。引き続き、ご活用ください。
- キャンペーン事務局より、2010年7月に参加証(クラスごと)をお送りします。  
世界中でのキャンペーン参加人数を報告する報告書(各校1枚)もお送りします。

## 5. 事後学習「1GOALキャンペーン」

「世界一大きな授業」で世界の教育の現状を知った次は、学んだことを一人でも多くの人に伝えて、世界を変える行動につなげてみませんか? 「1GOAL キャンペーン」では、すべての子どもが教育を受けられることを願う声を世界中から集め、世界のリーダーたちに届けます。



サポーターには、有名サッカー選手をはじめ、ヨルダンのラーニア王妃、ゴードン・ブラウン英国首相、ヒラリー・クリントン米国国務長官ほか、多くの著名人も名を連ねています。

日本では、「世界中の子どもに教育を!」というメッセージが書かれた黄色い紙を集めて、首相に届けます。これは、教育の支援が足りないことを訴える、イエローカードです。キャンペーンに賛同する人にイエローカードに名前を書いてもらった上で、キャンペーン事務局にお送りください。

### 【参加方法】

- 黄色い紙に「世界中の子どもに教育を!」と書き、賛同してくれる人たちに名前を書いてもらいます。(イエローカード)  
※同封のフォームを黄色い紙にコピーするか、手作りで作成してください(形式は自由)。  
※首相宛のメッセージを添えていただくことも可能です。
- 名前を書いた人数の報告とともに、イエローカードをキャンペーン事務局にお送りください。  
【締切日: 6月11日(金)】
- 結果は、キャンペーンのホームページ上でご報告します。

### <お問い合わせ先>

「世界中の子どもに教育を」キャンペーン事務局 (担当: 船越、城谷)

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22-11F プラン・ジャパン内

TEL: 03-5481-0030 FAX: 03-5481-6200 E-mail: [event@plan-japan.org](mailto:event@plan-japan.org)

●ホームページ: [www.jnne.org/gce2010](http://www.jnne.org/gce2010)

## 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン実行委員会の構成団体(NGO)

これらの団体は、市民の立場から途上国における教育支援を行っています。また、国内では、募金受付、事務局訪問受け入れ、講師派遣、教材・資料の貸し出しをはじめ、多彩に機会を設け、みなさんの参加を呼びかけています。

団体	主な活動	学校向け教材
 (特活)ACE(エース) 03-3835-7555 <a href="http://acejapan.org">http://acejapan.org</a>	「児童労働」の撤廃と予防に取り組んでいます。チョコやサッカーボールなど身近なモノを通じて児童労働を伝える活動や、インド・ガーナの子ども支援を行っています。	・「おいしいチョコレートの真実」教材&DVD(販売) ・児童労働写真パネル(貸出) ・サッカーボール縫い体験キット(貸出)
 (特活)オックスファム・ジャパン 03-3834-1556 <a href="http://www.oxfam.jp">http://www.oxfam.jp</a>	オックスファムは世界 100 か国以上で、貧困から立ち上がる人々を支援し、貧困の根本的な解決を目指し活動する国際協力団体です。	・ハンガーバンケット(世界の食料格差を体感するワークショップ)ほか ・写真展リレー(パネル貸出:無料) ・英語で学ぼう 世界の貧困
 (社)シャンティ国際ボランティア会 03-5360-1233 <a href="http://www.sva.or.jp">http://www.sva.or.jp</a>	アフガニスタン、カンボジア、ラオス、タイ、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプで、おはなし、絵本出版などの図書館活動と学校建設を中心とした教育・文化支援活動を行っています。	「絵本を届ける運動」カンボジア、ラオス、ミャンマー難民キャンプ、アフガニスタンの学校や図書館に送るために日本の絵本に翻訳文を印刷したシールを貼り付ける活動
 (社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 03-6859-6869 <a href="http://www.savechildren.or.jp">http://www.savechildren.or.jp</a>	国連公認の国際 NGO。子どもの権利の実現を目指し、世界 120 カ国以上で、子どものための支援活動を展開しています。	・世界の子どもの状況や国際協力活動を知るための教材販売・貸出 ・参加型学習プログラムの実施(事務局訪問受け入れ時)
 (財)日本フォスター・プラン協会 03-5481-0030 <a href="http://www.plan-japan.org">http://www.plan-japan.org</a>	途上国 48 か国の子どもとともに地域開発を進める国際 NGO。途上国の子どもと交流するプラン・スポンサーシップが特徴で、学校クラスの交流もあります。(プラン・ジャパン)	・クラス交流「ガオ村チャンネル」 ・子ども用サイト「プラン・スクール」 ・絵本ワークブック「村を動かした男の子」(無料配布) ・世界の国ボックス(貸出)
 (特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 03-3835-0221 <a href="http://www.ftcj.com">http://www.ftcj.com</a>	子どもが主体的に活動することを大切にしています。つまり、「子どもが子どもを支援する」国際協力を合言葉に活動しています。	・リーダーシップトレーニング講座 ・子ども活動応援ウェブサイト ・「児童労働ゲーム」ほか貸出 ・子ども向け書籍
 (財)ユネスコ・アジア文化センター 03-3269-4435 <a href="http://www.accu.or.jp">http://www.accu.or.jp</a>	識字、ノンフォーマル教育教材開発、人材育成、ネットワーク作りに取り組めます。また、持続可能な開発のための教育(ESD)の教材制作、活動推進拠点やプロジェクト支援を行います。	・識字アニメーション「ミナ笑顔」37 言語収録版 ・環境教育教材 PLANET シリーズ ・ESD 教材活用ガイド ・アジアの友達に会おう!(絵本)
 (特活)ラオスのこども 03-3755-1603 <a href="http://deknoylao.org">http://deknoylao.org</a>	ラオスの人々の絵本、紙芝居などの作品作りを応援し、小学校などに届けています。日本では、日本の絵本にラオス語を貼り、ラオスに送るボランティア活動に多くの人々が参加しています。	日本の絵本にラオス語の翻訳を貼ってラオスに送りませんか。貼った人のサイン入り絵本が子どもたち楽しく読まれます。

世界中の子どもに教育を！ Education for All